

学級活動（１）学習指導案

指導者 呉市立港町小学校 陰 菜穂子

1 学 年 第2学年1組 21名，第2学年2組 20名

2 議 題 「1学期スマイル学年集会を開こう」

3 議題について

（１）児童の実態

本学年の児童は、休憩時間も外で元気に友だちと遊ぶ姿が多く見られる。一方で、2年生になって新たに学級編成をして、互いの人柄や性格をよく理解していないことから、友だちのちょっとした言動を厳しく非難したり、ささいなことでトラブルに発展してしまったりすることもある。また、グループ活動などの様子を見てみると、指示されたことはできるが、自主的に物事に取り組もうという態度が十分に育っているとは言えない側面がある。

第1学年の学級活動（１）の話合い活動では、教師の援助が所々で必要ではあるものの、児童が司会をして、話合いを進め、フォロワー側も、理由をつけて自分の意見を述べるができるようになった。しかし、意見を出し合うばかりで、それらを比べたり、まとめたりするような話合い活動にはなっていない。そこで、2年生では、学級活動（２）の内容「イ よりよい人間関係の形成」で、多角的・多面的な物事の考え方について学習するとともに、学級活動（３）の内容「ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成」で、学級会オリエンテーションを行い、「合意形成ステップシート」を使って、合意までのプロセスを体験して共通理解を図った。また、児童は学期末に行う集会活動をいつも楽しみにしており、学級活動（２）（３）で自己決定したことを話合い活動（１）で生かして、実践に移そうと意欲的である。

（２）議題選定の理由

本議題は、学習指導要領の内容「学級活動（１）学級や学校の生活づくりへの参画 ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決」を基に、設定した。2年生の1学期は、運動会の練習や1年生との交流活動など、学級を越えて活動することが多かったことから、学年全体で1学期間の頑張りを振り返りたいという児童の提案によるものである。

指導にあたっては、事前の計画委員会で、話合いの進め方や、時間配分、活動計画の立て方などを助言し、自分たちで自主的に企画・運営ができるようにしたい。特に、計画委員会の段階で、板書計画や言語技術一覧を用いて、「ふかめる」から「まとめる」までの話合いの過程での合意形成のイメージをもてるようにする。司会が進行に困ったときや児童に判断できないことについては、場に応じた助言をしたり、話し合う方向がずれたときには、提案理由に立ち戻るように助言したりして、話合いを自分たちの力で進めていくように支援していきたい。

また、「合意形成ステップシート」を用いて、賛成・反対に関わらず、それぞれの意見を多角的・多面的に考察させ、それらを比べ、検討させた上で、活動の目的に合った「みんながよい」問題解決とはどうあるべきなのかについて個人思考させ、関わり合わせることで合意形成までの思考を促していきたい。

集会当日は、自分たちで決めた集会のめあてや約束にそって、自分たちの力で最後まで集会を進行していくように支援していく。自分たちの力で集会をやり遂げたことで、達成感を味わわせ、学年としての連帯感や個々の自己肯定感を高めていきたい。

4 評価規準

観点	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活への 知識・理解
評価 規 準	学級の身の回りの問題に関心をもち、他の児童と協力して進んで集団活動に取り組もうとしている。	学校生活を楽しくするために話し合い、自己の役割や集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し仲良く助け合って実践している。	みんなで学級生活を楽しくすることの大切さや、学級集団としての意見をまとめる話合い活動の基本的な進め方などについて理解している。

5 活動の見通し

	児童の活動内容	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
事前の活動	1 議題を計画委員会が決定する。 2 計画委員会で活動計画書を作成し、活動の見通しをもつ。 3 学活タイムで提案をし学級全体で意識を共有する。 4 「学級会ノート」に自分の意見を書く。 5 全員の学級会ノートに目を通して短冊を作る。	・ 選定した議題について全員に知らせ、承認を得る。 ・ みんなが理解できる提案理由になるように提案者に助言する。 ・ 決まっていること（条件）が共通理解できるように必要に応じて助言する。 ・ 学級会ノートに励ましの言葉等を記入し、話合いの意欲を高める。	【関心・意欲・態度】 ・ よりよい学級生活のために進んで議題を選ぼうとしている。 （提案カード・観察） 【思考・判断・実践】 ・ 会の目的に合った意見を考え、判断し、ノートに書くことができる。 （学級会ノート）
話合い活動	6 話合い活動 「1学期スマイル学年集会を開こう」（本時）	・ 「合意形成ステップシート」を用いて、意見を多角的・多面的に考察させる。 ・ 活動の目的に合う「みんながよい」問題解決とはどうあるべきなのかについて個人思考させ、関わり合わせる。	【思考・判断・実践】 ・ それぞれの意見を多角的・多面的に考察している。 ・ みんなが納得できるようなよりよい問題解決について考えている。（合意形成ステップシート・授業記録） 【知識・理解】 ・ 話合いの進め方や約束を理解している。（観察・計画委員会活動計画）
事後の活動	7 決まったことを学級会コーナーに掲示する。 8 係の役割分担をする。 9 係で分担して集会の準備を行う。 10 「1学期スマイル学年集会」を開く。 11 集会終了後、振り返りカードを記入する。	・ 学級会で決まったことの要点をまとめて書けるように、計画委員に助言する。 ・ 複数名で担当し、協力してできるようにする。 ・ 協力したり、工夫したりして活動している児童を称賛する。 ・ 自分の態度を振り返り今後の生活づくりに生かせるようにするとともに友だちのよいところについても認められるように助言する。	【関心・意欲・態度】 ・ 準備や集会に進んで取り組もうとしている。（観察） 【思考・判断・実践】 ・ 集会の目的を考え、友だちと仲良く助け合って準備したり参加したりしている。（観察・振り返りカード）

6 本時の活動

(1) 本時のねらい

自分とは異なる立場の考えを理解したり、物事をいろいろな面から考えたりして、よりよい問題解決をするためにはどうすればよいのかについて考えながら、集会の計画について話し合うことができる。

(2) 本時の展開

議題	1 学期スマイル学年集会を開こう	
提案理由	運動会や学校探検など、1 学期もよくがんばりました。そこで、クラスが離れてしまった友だちや新しくできた友だちと、みんなで楽しく遊んだり、お互いのがんばりを認め合ったりしてもっと仲良くなりたいと思って提案しました。	
話合いのめあて	いろいろな意見をくらべたり、よさを生かしたりして、みんなが仲良くなれる「1 学期スマイル学年集会」の遊びと工夫を考えよう。	
話合いの順序	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
1 はじめの言葉 2 司会グループ（計画委員）の紹介 3 議題の確認 4 提案理由やめあての確認 5 決まっていることの確認 6 話合い ①どんな遊びをするか。 ②どんな工夫ができるか。 ③どんな係が必要か。 7 決まったことの発表 8 話合いの振り返り 9 先生の話 10 終わりの言葉	- 自分のめあてが言えるように事前に指導する。 - 議題や提案理由は1週間前から掲示しておき、提案者の思いを全員が理解し、話合いの指針となるよう事前に指導する。 - 日時や場所など、会を行うにあたっての条件を確認させる。 - 予め、短冊で意見を整理しておき、「出し合う」の時間短縮を図る。 - 理由をつけて発表できるように助言する。 - 柱①に重点をおき、「ふかめる」から「まとめる」の場面で、「合意形成ステップシート」を使って再思考するための書く時間を取り入れる。 - 必要に応じて「言語技術の一覧」や板書計画を用いて進行や黒板記録を助けたり、合意のイメージをもたせるために全体へ助言したりする。 - よかった点や課題について自己評価するとともに、友だちのよかった点などについても相互評価ができるようにする。 - 提案理由を意識した発言や学級全体を考えた合意のための建設的な発言をした児童、意欲的に参加していた児童を称賛するとともに、今後の課題を伝える。 - 計画委員へねぎらいの言葉をかけるとともに、実践への見通しをもたせ、事後の活動への意欲が高まるように言葉がけをする。	【思考・判断・実践】 - それぞれの意見を多角的多面的に考察している。 - みんなが納得できるようなよりよい問題解決について考えている。（合意形成ステップシート・授業記録） 【知識・理解】 - 話合いの進め方や約束を理解している。（観察・計画委員会活動計画）

7 板書計画

先生のお話

きまったことのたしかめ

話し合うこと③
どんなかきがあるか。

話し合うこと②
どんなくふうをするか。

話し合うこと①
何のあそびをするか。

出し合う

ふかめる

まとめる

みんなが

ぎだい

だい〇回 スマイル会

うんどう会や学校たんけんなど、「一学期もよくがんばりました。そこで、クラスがはなれてしまつた友達とや新しくできた友だちと、みんなで楽しくあそんだり、おたがいのがんばりをみとめ合つたりしてもうとなかよくなりた」と思つていあんしました。

いろいろな見をくらべたり、よさを生かしたりして、みんながなかなれる「一学期スマイル学年しゆう会」のあそびとくふうを考えよう。